

インドでは街中で売られているミネラルウォーターのキャップがきちんと閉まっている新しいものかをしっかりと確認して買うこと。これは基本である。

このまさこの地球を狭くする



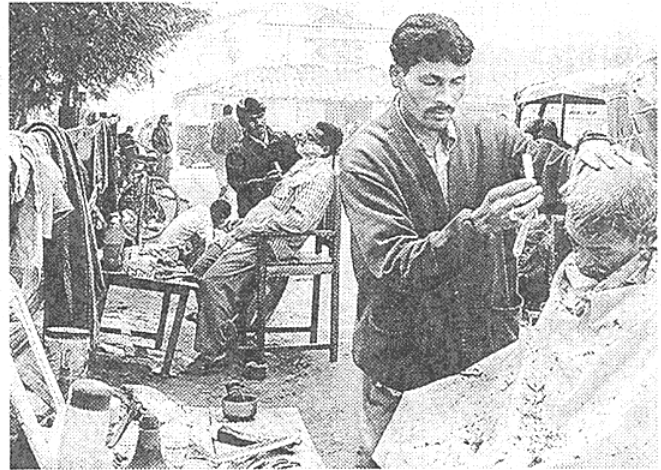
デリーでガンジーが殺された場所におまいりしたとき靴を脱ぎ、全員はだしになった。インドでは寺院にはいるときは、はだしになる。そのとき、現地のインド人婦人が肌色の足袋タイプにきた。

プのソックスを履いて参拜している姿をみかけた。アグラのタージマハールに入るときにも履物を脱ぐというから、同じソックスが途中で売られていたら、私がツアー参加者に買ってプレゼントしようと思った。アグラに着いて、翌朝バザールへ。露店で肌色の足袋タイプのソックスが一足十で売られているのを見

た。それならば、と戻り、露店の荷台の上で、露店主とともに、透き通った袋に入ったソックスを一箱に数えた。確かに袋は十一袋あったから、疑いもなく百で渡して、一足おまけしてもらえたと言いでバスに戻った。

インド最新旅事情

旅は戦いだましの手口



路上の理髪店。インド・アグラ駅前

ひかれていた。値段を尋ねると五百ルピーという。私はそのとき、五百ルピーならほしいと本当に思った。とっさに日本円に換算できしたが、インドは日本より物価がはるかに安いということはどこかに吹っ飛んでいた。何回か、値段の交渉をして、ディスカウントを精いっぱいしましょう、と店主はにこやかに言った。そして、ラストプライスで、三百ルピーはどうか、と。私はツアーに同行したインド人ガイドが口を利いてくれたのだから、と信じて三百ルピーで手を打った。が、ツアーの最終日のこのと。デリーの国際空港で、柄は違おうが、同じ大きさの、ビーズが光り輝いているタピストリーのある店で見つけた。あれ、いくら？ とたずねると、店主は百ルピーとたずねると、店主は百ルピーに目をやっていると、買うか買わないか迷っているとおやじは感じたらしく、なにも言わないうちに七十五ルピーにまで負けた。私は逃げるようにその店を出た。

つけた。十足、百の計算だが、十一足買うから百にまけなさい、と値切りの交渉に入った。が、店主は首を縦にふらない。それならけっこうと、私が十ルピーの帰りかけたとき、安くするから、と若者が私を呼びにきた。

は、なんとソックスが片一方ずつしか入っていない。結局、私は正規の値段で十足のソックスを買わざるを得なかった。ツアーでは観光の合間にサリーの生地や、銀製品などを売る店に何度か案内された。私はアグラのある大きな店で、「この人はこのツアーの全体コーディネーターだから、できるだけ安くしてあげて！」と同行したインド人ガイドが店主に紹介してくれた。私はその店では、ビーズなどをたくさんあしらった壁にかけるタピストリーに

（トラベルデザイナー）

せいかつ 21

